

秋田県における性教育講座について

秋田県産婦人科会では、秋田県教育庁や県医師会と協力し、中学生と高校生に対する性教育講座の推進に取り組んでいます。

平成12年、秋田県では10代の人工妊娠中絶率が、全国平均と比較し高値であり、対策が必要であると考えられました。その年より、産婦人科医による高校生に対する性教育講座が開始されました。性教育講座は、性に関する正しい知識を身につけ自己決定できる生徒を育成することを目的とし、講師が学校に出向き約50分間の講義を行っています。内容としては、2次性徴、妊娠、避妊、性感染症、あるいはセクシュアリティなど多岐にわたります。性教育講座は、平成12年から開始され、平成14年からは中学生に拡大、平成17年からは小児科、泌尿器科等の医師会員の協力を得て、県医師会が主体となって継続されています。平成23年度まで、小学校4校、中学校285校、高等学校305校、特別支援校19校の計613校の学校に対し性教育講座が行われました。

平成16年6月には、性教育指導用の教材として「すこやかな心と体の性の成長をめざして」を発刊しています。現在改訂を加え、328枚のスライドを作成しCDに収めています。性教育講座では、その中から、講義を行う学年に適したスライドを選択できるようになっており、講義内容の充実に役立っています。

性教育講座後のアンケート調査でも、約9割の生徒より講義をうけてよかった、との回答がありました。また、性教育講座に取り組んでから、秋田県の10代の人工妊娠中絶率は、平成13年をピークに減少に転じ、平成19年には全国平均を下回り、現在ではピーク時の1/3以下まで減少しております。性教育講座の一つの成果と考えております。

性教育は、もちろん講義だけでは充分ではありません。講義の前後の学校における授業はもちろん、学校と家庭の連携も必要となります。しかし、情報の氾濫している社会の中で、直接医師が生徒に性の正しい知識を伝えることは、重要であると考えております。今後も、秋田県産婦人科医会では、性に関する正しい情報の普及に努めていきたいと考えております。（大山則昭 記）